

にしき丘

編集・発行 苫小牧高専 新聞局
発行責任者 手塚健太



小林校長先生への インタビュー

Q. なぜこの時期に先生が変わったのですか？

A. 前任の校長先生の個人的な事情です。

Q. 以前はどのような仕事をしていたか？

A. 北大で教授をしていました。機械工学の中の振動工学という分野を専門としていました。

Q. 苫小牧にどのような印象を受けましたか？

A. 比較的、住みやすそうな気候だと感じました。

目次

一面	小林校長先生インタビュー
二面	高専大会の結果
三面	教職員インタビュー
四面	教職員インタビュー

A. また、西から東にとっても長いと思います。

Q. 大学と高専との違いはどのようなところですか？

A. 学生がとても若いと感じました。一人の先生に対して生徒の数が少ないので、きめ細やかな教育ができていると感じました。

Q. 十五歳から専門的な教育を受けるという事に関してどう考えますか？

A. 日本は技術立国であり、産業を支える人材が必要です。大学は研究者を、高専は現場で働ける技術者を育成するという役割を担っています。

A. 手を動かして働きたい人にはとても良い学校だと思います。

Q. 学生に向けてメッセージ

A. 取り巻く環境がグローバルになっているので、外に目を向けてほしいと思います。また、デジタルとアナログを使い分けて五年間を充実させてほしいです。



高専大会結果

先日行われた高専大会の結果を調査した。その結果を次に紹介する。

アーチェリー部

団体 優勝

佐藤 颯空 個人 一位

大西 漠 個人 二位

ソフトテニス部

松岡、堀井ペア 男子ダブルス 優勝

渡辺、相原ペア 女子ダブルス 優勝

渡辺美麗 女子シングルス 優勝

サッカー部

優勝

ハンドボール部

準優勝

女子バスケットボール部

準優勝



剣道部

団体 準優勝

田中 響 個人 三位

柔道部

竹田 聖 60kg級 優勝

山下 響生 90kg級 三位

バドミントン部

男子団体 準優勝

女子団体 優勝

伊藤篤史、高田隼世ペア

熊谷朱莉、伊藤春瑠姫ペア

伊藤篤史

堂高太地

伊藤春瑠姫



男子ダブルス 優勝

女子ダブルス 準優勝

男子シングルス 二位

男子シングルス 三位

女子シングルス 三位



教員インタビュー

苫小牧高専には百を超える教員が勤務されている。五年間かけても、全ての教員と関わることは少ないだろう。そこで、少しでも学生に教員のことを知ってもらおうと思い、何人かの教員にインタビューを行った。その結果の一部を次に紹介する。

Q1

高専の教員になったきっかけは何ですか。

A1 総合自然科学系 藤島先生

中学生ぐらいから数学の教師になりたいと思っていた。大学卒業後は、高校の教員になったが、高専の数学教員に空きがあったので異動することになった。

A2 情報科学・工学系 大橋先生

私は苫小牧高専を卒業後、室蘭工業大学へ編入学し、大学院博士課程修了前に民間企業へ就職内定が決まっていた。当時は十年ほど実務経験を積んだ後、高専または大学の教員に転職するといったキャリアパスを考えていました。卒業間近のクリスマスの夜、大学の研究室で論文を執筆していた際に本校の公募を見つけ、大学のポストと本校情報工学科の恩師に相談し、採用試験を受けることになりました。

Q2

創造工学科についてどう思いますか。

A1 都市・環境系 栗山先生

次世代は、単一の専門知識のみの技術者は、生き残っていけず、複数の専門知識に精通した者が必要と言われている。その入口として創造工学科に改組したことは意義深いと感じている。

また、AI化が進む中、未来で生き残る人材像として

- ① イノベーション力
- ② ネットワーク力
- ③ リーダーシップ力

の三つが、必須といわれている。これは従来、部活やサークル活動で養われていたが、部活が衰退する中で、これに代わり創造工学科のカリキュラムが担うことになろう。

Q3

高専の教員になって大変なことを教えてください。

A1 情報科学・工学系 中村(惠)先生

小ネタ用の情報収集。ジェネレーションギャップを日々感じます。

A2 都市・環境系 近藤先生

内緒。

Q4

学生に授業する上で気を付けていることを教えてください。

A1 機械系 當摩先生

学生自身が担当授業に興味を持ち、モチベーションを常に維持できるように考えている。

A2 電気電子系 上田先生

まずは学生の皆さんが眠たくなならないような授業にすることです。次にできるだけ実物を示しながら、授業で教えた知識や技術が社会のどのような場面でのように役立っているかを意識させながら理解してもらうことに気を配っています。また、知識の詰込みよりも理解度が深まるような説明になるように心がけていますが、なかなか難しく永遠の課題です。

A3 情報科学・工学系 稲川先生

学生諸君の様子を見ながら話すこと。先に先に行かないように時々ブレーキをかけること。

Q5

自身の専攻について教えてください。

A1 情報科学・工学系 三上先生

大学時代は精密工学、機械と情報の境界領域です。今は生体医

工学を専門にしていますが、研究に必要な知識は情報や機械（の一部）です。

A2 情報科学・工学系 原田先生

・複雑ネットワーク
ネットワーク分析とも呼ぶ。

・機械学習
ディープラーニング等。

A3 都市・環境系 下村先生

交通計画・都市計画。具体的にはより良いまちづくりに関すること。

教員がインタビューに対応していた
だいた時間は、平均して約二十二分
で、中には約一時間かけて対応してく
ださった方もいた。

最後に、お忙しい中時間を割いて対
応していただいた先生方に御礼申し上
げます。本当にありがとうございます
た。

局員紹介

局長 4-3 大西 漠

局員 4-5 手塚健太

1-2 高木梨々香

1-3 森谷春斗

1-4 秋元真生

1-5 秋山博基

2-1 吉井陸

2-2 飯塚遥稀

2-3 山本純怜

2-4 藤盛裕貴

2-5 大西美月

3-4 宮崎洋輔

4-1 竹下幹立

4-4 池田脩志

4-5 岩間奨

M5 井内智

K5 三浦奈都

顧問 機械系 小薮栄太郎

編集後記 新聞「にしき

丘」の発行に伴

い、取材やイン

タビューをさせ

ていただいた

方々に感謝いた

します。